法學部教授

理解の加くに限と政命講演部は雑一然の研覧者を交へて翻覧をよるような言語を表する。 大震を開催する。銀るもの名願官 大震を開催する。銀るもの名願官 大震を開催する。銀るもの名願官 大震を開催した。銀るもの名願官 大震を開催した。現るもの名願官

正 君

本蘆葉氏

◇創造の生活。

れたる流麗典雅なる全文の藝術的れたる流麗典雅なる全文の藝術的とを添附せり。 とを添附せり。

翻譯出

づ!!懇切なる解題と冠註典---現代語を以て綴ら

部鴨村

氏

定價金貳圓五拾錢

刊新最

部鴨

村氏



歴と、宮々湶の結晶であり首々繁重の滴りである。庶くば世の郷文猷華の書と同一祝活の大戦喜に安生し、茲と苦悩を讃純と「時迷とつゝ現代人に向つて他力信仰の白繁活の大戦喜に大りて決めること衆星端、人間苦のどんほより不談の追を棚り造作家として傑出せる幾多の創作に悲痛無比なる人生を描いて見せた著書は、漁町慰進作家として傑出せる幾多の創作に悲痛無比なる人生を描いて見せた著書は、漁町慰

替東京六四四三〇七京市外集陽堀ノ内一二五

東京市 謞 查 會發

名論卓説を募らうと思ひます、第一回の試みは爲すべきこと、信じます。我部は斯様の見地から時々題を課して諸君の省察に供し、仍て成るの本分なるのみならず、又思慮ある國民の當にの本の問題に就て深く省祭することは、啻に學徒

大學教育を受けたる者の社會的任務







とを添附せり。とを添附せり。を添附せり。を添附せり。を添附せり。を添けている。を添けている。を添けている。を添けている。を添けている。を添けている。を添けている。を添けている。をある。をもなる。をもなる。をもなる。をもなる。をもなる。をもなる。をもなる。をもなる。をもなる。をも

忽第三版 貳圓

五論論論 20 第次 20 第 20 第

大京 學都

御帝用國

カタログ御申越次第進呈

御注文迅速取次 海外洋書直輸入 同洋 振替口座東京二三九六五

東京市神田區通神保町

行

並寫二眞 印製刷版

寫

眞

北北高町寺市都京館 夏 寫 堀

たの各格者は 松隈定質、前田隆一、藤井幸永 「大田」、 「大田」、

路藤良山、森下確也 金原四郎、木村正、志村茂治、金原四郎、木村正、志村茂治、木村正、志村茂治、 するやう致し更いものである。

新判のより 発力の音音 盛に利用さる 盛に利用さる の音合に 一般表の

帝大歌樂會、京都化 界総語會、 一四五名を薫してある。 壁に鉄鉱館をの確たる場合は左の畑し ・一四五名を薫してある。 壁に鉄鉱

は催すべく、先生方はお意文なき

私共は此の悠々たる心臓に安性

小都大學購賞組合指定

部會、經濟學部同好會、經濟學會 祭、病院外科、日本化學會 克都

日學びにいそしんでゐた校舍は恐ろしいことでした、私等の毎地震、ほんとに今思ひ出しても地震、ほんとに今思ひ出しても

と出しました。思しいとは生徒の中から二人迄犠牲む家も潰されました、悲しい

激勵文と義捐 震災地を訪 - 各地に光る感謝の涙

金を齎して

本學慰問委員の復命

悪深き兄様方へ **稲災各小學校兒童諸君** 京都帝國大學學生一同

-- 覺悟が出來ました へた健氣な言葉

に野上峡土を召出され同題に就 き再度詳細なる講話を御禮収遊 はされ終つて同域土に對し租々 関数勢の御言葉を賜つた。これ

延いて本學無上の光榮とする所 牧野内大臣以下關係宮内高等官である。尙當日は一木宮内大臣

授業を受けられるやうに い餘震も恐ろしくなくな い餘震も恐ろしくなりました な校舎も苦にならずに眞

方の御蔭です、心

一時はどうなる事かと心も落付 きませんでした、此時私等の最 が見ざまと呼ばして下さい)方 から澤山の義捐のお金と激鯛の しかつたでせう。 しかつたでせう。 しかつたでせう。

がりこした腕がない縦を想ふて目 かした生活をしてゐる。心にのん かした生活をしてゐる。心にのん

近く竣工する本學理學部事務室

尊徳翁を 忘れるなと

京都帝國大學學生御一同様 京都帝國大學學生御一同様 本程代表者 井 恒 弘 生徒代表者 井 恒 弘 太らる」 一教授

理機数望を去られても簡要界は密しは言ふを待たない處である。今初の習書が重用されてゐること

| 河合教授略|| 原際 | 河合教授略|| 原際 | 河合教授略|| 原加 | 河合教授略|| 原加 | 河合教授略|| 原加 | 河南州二年興科大學數與科辛業 | 同年任同校教授 | 同年任同校教授 | 同年任同校教授 | 一大平助教授 | 大平助教授 | 一十三年東本官專任同上 | 卅三年東本官專任同上 | 卅三年東縣研究ノ為滿二ヶ年間 | 原與《留學ヲ命ズ で恐らくは永遠に消えぬここであ

教授 間年任京都帝國大學理工科大學 冊六年歸朝

同五年後願河上の 同七年帝國學士院會員被仰付 同七年帝國學士院會員被仰付 同十二年佐願史本官 同十二年佐願史本官 同十二年佐願史本官

於正九年補 京都 留國大學理學部大正九年 依顧同上 7 绝ズ大正十年 依顧同上 7 绝ズ 大正三年任京都帝國大學理科大州八年理學博士ノ學位授與





士博學理台河

來る八月一日より本學に 大て第十六回講演會を開 く(詳細は六月九日官報 七月二十日限り申込まる 郵券添付申出られたし。

學大國帝都京

の屋濯洗 所る 視 の目衆

所す指の指十 一第が濯洗川茂賀



社會資合濯洗川茂賀

水に落して わたしはこれが かきま いッちすき v チラツ 紅多茶等 わす 0 0 いレモン紅茶が出來ます とで度よ 10 द्ध



祭原商



電話上二一六五番

508

が思想が違ふので

なるここな間に関映ある話であります。 なるここな間に関映ある話であります。 なるここな間に関映ある話であります。

物の核源こして最も恐ろしいもりがの核源こして最も恐ろしいもり

馬術部の奈良遠牙

(木津川原にて小休止)

黴。生活と植物。病氣 農學部教授

の方々は植物の病氣三謂ふものを 命を完らするここが出來ないで早時に病薬に罹るここが伸座 のであつて、蜜柑及び

であるが継続は同と、後の近いものは、ます、又お正月の併に生ゆる背後できるが継続は同じく後の近いものであります。

原子核に關する

御手をわづらはして副つていた の三元はなければなりません。 等先生方の御蔭で出來上つたもあります。私の研究は全くこれ

は、世界の対象を見るが、世界は地心な形ま者の手には、世界の対象をして包含して居るが、世界は地心な形ま者の手に、ままは地心な形ま者の手に、

大それた様に聞こえまして汗酸 學界未知の新說

本學々生奥正男君の研究

原子核を研究して見たくなつた
の職された微妙な聴家を探しま
の職された微妙な聴家を探し来
の職された微妙な聴家を探し来

く何等かの微妙な聴厥が隠されて回答とこには核の構造に脳して恐られません。 に越るものこは趣はれません。 に越るものこは趣はれません。

程は世上なくられしく思ひます この小研究が少しなりこも訳や この小研究が少しなりこも訳や でのもを認める略が出來るならば いますが、起の は世上なくられたく思ひますが、起の

(本) | 等原中、二等吉川(主) | (本) | 等原中、二等高州(主) | 等 | 西湖南路 | 七九縣五 | 七九縣五 | 七九縣五 | 七九縣五

骸骨を抱いて寝る 有触れたる際になってたから説明: なって容異るのであります、いまでそれは黴の種類が異なるに

の事ざも 舟岡教授談

◇六月十四日土岐委員指導のもこ

馬術部競技

であらう。君が一であるものである。 であらう。君が一であるものである。 であらう。君が一で変味が事態の或る部がの際下に闘する。 はれたにがて興味あるものである。 であらう。君が一の歌呼に既外の警線 であるものである。 財際記式で競技監を製行した。 財際記式で競技監を製行した。 がいた、芸能概委職報の社に確求 がは、はに規模を がは、はいた機能にない。 はいたが、 はいが、 は

に にメートルをあけ黄音はく 路野狸 に放きした。 常日の 競技権は 及び である。 して脚房師に莚を布き版社会に更からな中を総合一覧して空く腔職したる中を総合一覧して空く腔職し (第二囘)蛇のり競走

(第)二等大閣:二等吉川(主) (第)二等大路:二等吉川(主)

府立醫科大學眼科御指定京都大學病院眼科御指定 吉川眼鏡店 獨逸カール、 ツアイス會社 正確 廉賣 取

補血强壯增進劑

P

瘰癧、

動

腺病質諸

郎次作原杉主會

補血

强壯

ある 徽毒性貧

車轉自動自及車轉自體 經 修 及 賢 版 經用御學大國帝都京 會商車轉自谷新

末萬岡平 坂條五都京店本 店阪大・店京東 角町物唐筋場· 町鋸大尾橋京

は寺町通ナガヤ

京都市竹屋町寺町東入 服服服衣

械家庭承生器具产取

著をしてその向よ所を知らしめた て現れる管である。日本人際戦部 である。日本人際戦部 動脈の概然は緊張の事 日本の解剖學者にして

般

職能の顧婆にが胆酸な的

樂友會

補血强壯增進劑 ● 帝國 大學病院。赤十字,此病院。各府縣立病院御採用 醫學博士 由田 基氏 醫學博士 出加三無氏 醫學博士 山西 建氏 醫學博士 直間 要氏 醫學博士 土田卯三無氏 醫學博士 迪西 健文氏 醫學 羸痩者等に卓効ある 兒發育不全、虚弱、 急性慢性 質血病、小 ブルトーゼ、城中月分

圓圓

アル 七 プルトーゼ
大和一命三個五十銭

息、急性及慢性病の神經衰弱、神經性喘 皮膚慢性疾 增進劑 ブルトーゼに拘合したるものなれば其効果態顯著諮뒀及皮膚慢性疾患等に著効を有す。之れを單味 れ署しく烫育を佳良ならしむるものにして神經性皮膚艷麗となり赤血球並血色素の新生を亢進せら皮膚艷麗となり赤血球並血色素の新生を亢進せら

をはった。而して服用極めて容易にもて低に各臨床路 によっ。而して服用極めて容易にもて低に各臨床路 になり。而して服用極めて容易にもて低に各臨床路

ブルトーゼ
木和一命三側五十銭

補血强壯

恢復期、

患等に卓効ある

血等に卓効 脈硬化症、個僂病 增進劑 かで容易にして且絶對調作用を有せず。 かを强質にす、而して芳香甘味なるが故に服用極 がないない。 がである。 分を増加しすべての新陳代謝を盛んならしめ且腺性貧血等に効果を收め得るやう親出せるものにしてヨードの人體に吸収せらるゝや甲狀腺の特殊成れにヨードを結合せしめ以て腺病質誘症就中鐵器 單味ブルトーゼの著効は前述の如くなるも更に之

ナブルトーゼ 大瓶、用分 ・瓶作用分 ・瓶作用分 ・瓶作用分

キナは强肚獺として古來軍用せられつゝあるもの

妊婦、產後、乳母等 食慾缺損、神身過勞 而して其味芳香美甘なれば老幼と雖る服用極めてアルトーゼの効果を一層倍加せしめたるものなりアルトーゼの効果を一層倍加せしめたるものなりで、キナブルトーゼは即ち此キナーの効果を回答されている。

に應用して其効果最も著し。

に卓効ある

補血强壯增進劑 ルブルトーゼ、水脈(月かん)の流順五十銭

コグ

より胃腸を害すること全くなく吸収速かにして咳腐蝕性を有せざるが故に口腔食道を害せざるは素 媒介に依り掏合せしめたるものにして刺戟性又は
草味プルトーゼに可溶性グアヤコールを蛋白質の

り。而して芳香甘味を有するが故に小児と雖る口 體軍を増加する鐚總でのグアヤコール郷に冠絶せ 厭を頷靜し略擬を滅じ高度の食怒亢進作用を有し に決く服用極めて容易なり。

に卓効ある、味

咳、咳嗽等

氣管支カタ

賣捌 各地藥店 ◎販賣者の注意 アルゼンブルトーゼに限り法規に依る買受證を徴せらるべし 說明書進呈

大阪市東區道修町二丁目(振春大阪 1 七四1 米) 木 紬 藤 澤 友 吉 高 店 東 京 支店 東 京 市 日 本橋區本町四丁目 東 京 支店 東 京 市 日 本橋區本町四丁目

、發賣元

ケムブリツチでの日記から

SOCIETY)があるから、出席せないから誘ばれた。願ふてもない TERHOUSE HISTORICAL

世界の中心さなり、私がもの時間であったらいよれも居られて、自然診断であったら、私がもの時間であったら、私がもの時間であったといよと、実代ものからに挙の強がの意外に切かったといなと、実代ものは、世界の後にもない。いつもに挙のとし、大人ものは、世界の後にもない。このは、世界の後には、世界の母の後には、世界の後に を氣の毒に思つた。 氏の窓内で其特

にれた。時数を

が 一般 であるまい。 一般 では、 一般 であるまい。 一般 である。 は、今晩の東墓 郷の勝喩を完腐なき巡に離談され まに、好資と、今晩の東墓 郷の勝喩を完腐なき巡に離談され まに、好資と、「一年」という。 かいましては別談対談をす 収修かれて、次回となると、「今晩の東墓 郷の勝喩を完腐なき巡に離談され まに、好資を、「今晩の東墓 郷の勝喩を完腐なき巡に離談され まに、好資 聞いて居られたが、

職らうこっそれで座長は散対を宣 産さして彼母に今晩の景況を話

日本短歌史序說

大きいはれた。私は只候職の横の出て、一てよし対し、いはれた。私は只候職の横の出て、一て、阿の他師もないから総理、「一、「一、「一」「一」「一」「一」「一」「一」「一」「一」「一」「一」「一」「一」「一」

ものこすれば、たよ音々はAが如 のであるここのであること は つた作品を、既を僭鄙変形ある作 何にBに懲骸したかのみを見てゆ 定しているのであること は つた作品を、既を僭鄙変形ある作 のにBに怨骸したかのみを見てゆ 定しているのであること 品を生まなかつた、短歌の沈徳時 まな、ADでもらり こしてもいよのである。落合値文 Bに成長短便してゆくここでありしないのである。路なる傾着はA であり一は外へ外への摑がりである。落合値文 Bに成長短便してゆくここでありているが響き必要と られる。一つは尺へ外への摑がりであ つの集職の短歌の關係を取り扱い合に還元せしめて、A、Bなる二 形成する場合である。一は総さこ後者はAミAが一緒になつてBをBに成長疑展してゆくここであり

がにも低にのべた城くあらゆる がにも低にのべた城くあらゆる を性格がよるが、の作品と無いた歌人の をはなが、の作品と無いた歌人の をはなが、の作品と無いた歌人の

だない、質にけしからん、あなだがない。質にけしからん、あなだかって際関います。

動立する。東に田舎がある。 一歩運べは既に鄙び

多概述の速夜の夢を育くむさんや他な込む。一般の様は古田山、後には、北京などをその柔かい懐中に

題はれる三部いた。する三数語は鬼角感情、勝つて居るや

既報の如くなりと友倫請願部は來 名の出演者を交へて無常をよるよ

さとその名で 高知 今井

三高 三木 正君 三高 三木 正君 六高 澤田

◇題未定(七高)門馬驍君(新潟)

◇創造の生活へ

○二大觀漪に直面して 四高 稻波 鴛字君

部の部は武器帰投、夜の部は正七

試驗合格發表

碳保臣·岡本三郎司、奥田喜嶽、 場英一、西村貞一、戶田賢一、千 日崎貞治、石川一夫、鷹東奎、馬一

小泉輝三郎、古林辨榮、江川周 小泉輝三郎、古林辨榮、江川周 金原四郎、木村正、志村茂治、

松隈定實、前田隆一、藤井幸永、片向憲人、無井鶴松、加藤弘之、

(六) 大文字山越え

京洛所どころ旅行部委員

神病學〉 (醫學部副務,受持科日精) (任助教授、醫學部副務,受持科日精) 百重 ・ 佐願醫學部講師の嘱託を解く 以上六月五日 図分 際郎 物學) 一年的教授(醫學部勤務、受持科目樂 助手 上井 敬三 史) 任助教授〈農學部勤務·受特科目農 助教授、黑 正 議 育種學講座擔任 評議員を命ず 以上六月六日 任を一ず的数優が特別を 数授 烏賀陽然良

法學》 任助教授(法學部勤務、受持科學處 法學》 以上五月十八日 是業機械學調座擔任を命ず 助教授 志士 農業機械學調座擔任を命ず 助教授 五十 計 (法學部勤務·受持科目政治學) 一年助教授(法學部勤務·受持科目政 設 以上五月十九日 以上五月十九日 眺望絕

佳芸芸保

長保

1

開町

島うし年ら鬱暖するさま、数室 戦攻撃を確白がつて、使の沓踏

時間的先後を重視するミいふここのであるが、それは二つの作品の AミBの間の時間的距離は十年で 五月雨の雪のくらさに吹き盛る の下びの土は乾かざりけり 五月雨の向つ屋根の上に弦をか なばた近く我が醉ひてをり

るへるミいふ際には、古今集

はなかなる意味に関て短歌の成長 ない短歌世もまた永遠の短いであるが、 それが短いではあるが、それが ないこも触らない。私はたまそのないこも触らない。私はたまそのない。といる疑問が 意義を究極の生命こしてみ

まかけるべきものであるここを断 であなる。 (未完) 學內辭令

を 提及部講師を嘱託すく林葉工學ン六 提及部講師を嘱託すく林葉工學ン六 提及部講師を嘱託すく林葉工學ン六 月十二日 さくら温泉 箱根湯本 大和國吉野山中之千本公園內 **社**

東海道御旅行の際は是非御立寄彼下天然の東海道御旅行の際は是非御立寄彼下天然の温泉に旅中の御疲勞御一洗顔上候 館

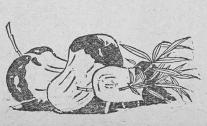
籍根塔之澤溫泉

日本政府登錄商標

不茶炭化 遊仙閣 紀 屋 旅

話

大藤食料品店電話中二八八八番





各地著名旅館案內

梅雨のころ、

阜

町

玉市

電電井

電田

話

二點

0

優秀なる醫暑地 嶋中にて最も海に近き

安藝酸

宮

島

光鏡ふらし登のむれは

の関艦この陽原を考察の中心こする意味での)だの人年代的叙聞こ 御御會 丹後天の橋立女珠

電話宮津一九番

紀州和歌浦公園

電話長和歌山二一八番和歌浦七番

館 理 奈 長二五

役行者一代記の鰻殿館を是非御一覧下さい 電話(吉 断)一

前鹽釜 前 木

京都市祗園町北側 電中四四O三番

> 而的加松产 京



